

國第一回 參議院決算・治安及び地方制度・運輸及び交通連合委員會會議錄第一号

昭和二十三年四月六日(火曜日)午後三時十一分開會

○海上保安廳法案(内閣送付) 本日の會議に付した事件

○委員長(下條康馨君) それでは選算、治安地方、並びに運輸交通の連合委員會を開きます。海上保安廳法案につきまして昨日質疑が終つておりますので、御意見を承わつて置きましたところであります。引續き御意見がありましたら、この際お述べを願いたいと思います。

先ず第一に、これは必ずしも港則法案ではございませんが、この海上保安警察を掌る職分の者であります。ところが港には港の管理運営をするために二百人、或いは三百人という厖大な機構があります。ところが港長といふ、つまり外國のハーバード・マスターを直譯された名稱を用いますと、國民について一般的に錯覚が起ります。これは丁度町の警察署長を市長、町長と稱するようなふうに感されるのであります。で、私は職分に適當した名稱はどうかと思うのであります。例えは保安長とか警察長といふようなふうに直した方がいいといふ

ト、ディレクターとか、或いはボート、マネージャーというのがござりますが、それはどういうふうな日本語に譯すか知りませんが、この港長というのは今までこういうふうに名前が通つております。新らしい名前でもないものですから、特に變える必要は認めないといふふうに私共は思つておるのでござります。

○兼岩博一君 それから第二の點の意見……今度は港則法案の問題なんですが、港則法案をみますと、鋪地の指定をし、轄舗の際にもこの港長の許可を受けるというようになつております。それで我々は私共の主張をしておりまつところの地方港湾管理者協議會の人たちが連合軍當局に港長の職務限界

と思ひます。鐵地指定を轉籍は港の運営者に任せるべきで、その運営者は又船舶が港の規則に違反した行爲をするか否かだけを監視するのが港長の役割だというふうに考えており、そういうふうにしなければならんと考えておるのであります。港則法案で特にこういう、當然運営者のするような仕事をまで港長にやらせるといふようなふうに規定しておられるのは、どのような者でしょか。ちょっと拜聴して置きたいと思います。

思つております。港長が錯地指定まで  
をする必要のある港、例えば日比谷公  
園ということを今政府委員が言はれま  
したが、その問題が、つまり港則法を  
の第五條第二項に命令の定める船港と  
は、命令の定める特定港に入港する際  
云々となつております。この「命令の  
定める特港」というのは、如何な港  
港とするつもりでこの草案を作つてお  
られたかという問題、これがつまり  
十一條の審議に對する一つの根本問題  
であります。一步を譲つて我々は或る  
種の特定港に對して假にこれを認める  
と假定した場合に、どのよろ精算  
らそれを認めるかと申しますと、それが  
はつま國が作り、且つ國が管理して  
おる國營港、第一種重要港湾、これは

この午前からの御質問でありますたが、この港則法第五條第二項「命令の定める特定港」、この意味でございまして、これは大體筆岩さんが言われましたところと同じような考え方を持つております。いわゆる第一種重要港湾は横濱、函館、大阪、神戸、開港。開港は港湾行政が一つになつておるようになります。それから言わされました教質、長崎というふうな心組で今のところであります。

○兼岩傳一君 只今大臣が第一種重要な港湾ならば、京濱でなくて、東京を含まない横濱港、それに第二に神戸港、下關、門司及び敦賀、それだけが、第一種重要港湾であり、これだけが國が製造し、國が管理しているのであるのに、今の御意見によりますと、その外

うに考えておりますが、この點念のためにちよつと政府委員の……つまりハーヴィー・マスターというのを單に直譯されたのが。そうでなくて、この名が非常にいいと思っておられるのか。或いは私の提案する保安長、警務長というような點を考えて港長とされたがどうか。

○政府委員(山崎小五郎君) ここで港長と出ましたのは、從来からも開港港則といふもので港長ということになつて、日本でも港長と言つておりますし、又外國でもこれをハーヴィー・マスター、ポート・マスターとか申しまして、大陸そういう同じような名前を探つておりますので、その關係からも港長という言葉を實は出しておりま

を尋ねました際に際しても、港長どもは原則として特定の船舶に對して特定の鋪地を指定するといふようなことが、つまり特定の鋪地に指定されるとか、或いはどの埠頭に繫留するといふようなことを命令するといふような仕事をするものでない。そういうような仕事をするのは、これはつまり船舶などの埠頭を使用するかといふような問題に據わるものではない。つまり埠頭に或る般舶がいるということは、その船舶自体が身或いはその埠頭に對て公共の危険を齎す虞がある場合にだけ、港長はその關係するものだということを連合軍の方でも、協議會に對して、つまり地方港灣管理者協議會の方に言つておられるのであります。が、私共もその通りだ

港において港長が錫地を指定すべき  
と私は思つております。そういう必要  
のない港にまで一々警察官がゴー・  
トップをやる必要はないのであります  
て、ゴー・トップをやる所といふ  
は、日比谷公園前とか、特に交通の便  
しい所だと思ひます、そういう意味で  
私共が今作つております草案につきま  
しても、港長は港に對して全部錫地を指  
定をやるのじやなくて、非常に常に船  
舶の往來の多い港に對しまして、大體  
錫地の指定をやらせると、ということじ  
ないかと思つております。

横濱港、神戸港、下關港、門司港、敦  
賀港の五港であります。これらの五  
港は國が築造し且つ國が管理しておる  
ものでありますから、國の警官がこれ  
の取締に當るといふことも、或る意味  
において領けないことはないと思いま  
す。果してそういうふうなのか。そう  
でなくして、これ以外にも出て行つて、  
つまり地方廳が築造し、地方廳が管理  
しておるものも、いわば日比谷公園  
的なものというふうに取上げてキツ  
行かれる覺悟であるのか。これをはつ  
きり聞いて、後の決算委員會の我々の  
態度を決めたいと思いますので、この  
問題は大臣からほつきりした御返答が  
頂きたいと思います。

港において港長が錨地を指定すべき、と私は思つております。そういう必要のない港にまで一々警察官がゴー・トップをやる必要はないのであります。と共にが今作つております草案につきまして、ゴー・トップをやる所といふは、日比谷公園前とか、特に交通のせんい所だと思います、そういう意味で定をやるのじやなくて、非常に常に船舶の往來の多い港に對しまして、大體錨地の指定をやらせるということじやないかと思つております。

賀港の五港であります、これらの五港は國が築造し且つ國が管理しておるものでありますから、國の管官がこれの取締に當るということ、或る意味において領けないことはないと思ひます。果してそういうふうなのか。そうではなくて、これ以外にも出て行つて、つまり地方廳が築造し、地方廳が管理しておるものをも、いわば日比谷公園的なものというふうに取上げてやつて行かれる御意であるのか。これをつきり聞いて、後の決算委員會の我々の態度を決めたいと思いますので、この問題は大臣からはつきりした御返答が頂きたいと思います。

○國務大臣(岡田勢一君) 今鎌岩さんのお午前からの御質問でありますたが、この港法第五條第二項で命令の定める特許港、この意味でございまして、これは大體鎌岩さんが言われましたところと同じような考え方を持つております。いわゆる第一種重要港湾は横濱、函館、大阪、神戸、關門。關門は港務行政が一つになつておるようあります。それから言わされました教質、長崎といふうな心組で今のところであります。

○兼岩博士 お、只今大臣が第一種重要港湾ならば、京濱でなくして、東京を含まない横濱港、それに第二に神戸港、下関、門司及び教質、それだけが、第一種重要港湾であり、これだけが國が築造し、國が管理しているのであるのに、今の御意見によりますと、その外

東京は入らなかつた。大阪、長崎その他の函館等を言つておられますか、それらは第一種重要港湾でないところのものをどうう根據でこれに指定し、命令に定めるところによるというように考えておられるが、御返答を頂きました。

○國務大臣(岡田勢一君) 函館、長崎は古くからやはり第一種重要港湾としての行政上の理由、その他の取扱を受けておるものと考えておりますが、さように考えておりましたので、さように考えております。又對外航路等が開かれました場合には、やはり北海道を十港、函館等は最も頻繁に外國船が入る所であり、又アジャ大陸に對しまして、長崎が開港門を離れてから九州としましては一つの根據地になるというよう考へ方からそら今考へておりますので、確定は國會の皆様方の御決定を俟つこ

とによつて決めるわけであります。

○鶴巣傳一君 東京、大阪は今のアイデアにおいて除外されているのですから、どううか。○國務大臣(岡田勢一君) 大阪は先程私申上げましたが、東京の方は大體只今のアイデアでは考えておりません。

○鶴巣傳一君 大阪は考えておりません。○國務大臣(岡田勢一君) はあ、考えております。○吉川末次郎君 私は第二十一條の第二項の、先程問題になつております「港則法に規定する事務を掌る。」と

いうのを「港則に關する法令に規定す

る事務を掌る」というように修正すべ

きものであるということについての主張をいたしたいと思うのであります。

その理由につきましては、先程の會合におきまして申上けましたことと同

じで、運輸省の當局もまだ存在し

ていないところの法律である港則法と

いうようなものを假定して立法するといふことは、法律的に不能であるとい

う見解については贊意を表されておる

ところなのですが、今聞くこ

とによれば、事前に衆議院においてま

だ本會議に諮つておりませんので、衆

議院の委員會側の事前の修正を求めた

のであります。衆議院の意思如何に

拘わらず、法律的に不能なことを立法

することは出来ないと思ひますから、

参議院はよろしく修正すべきものなり

と考えております。ただ併しながら

「港則に關する法令」という言葉が法律

的な立場から適切なる字句であるかど

うかといふことにつきましては、私自

身におきましても専十分の確信を持た

ないのでありますけれども、私がそ

うい言葉において意味しているところ

につきましては、皆さんも内容におい

て御了承願えることであると思うので

あります。その言葉の妥當性につきま

しては當局とも話合いの上検討して、

他に適切なる字句があれば直してまい

いと思つておりますが、大體その意味

するところは御了解願うことと思ひ

のであります。

○委員長(下條康吉君) 他に御意見

も……。

○岡本義祐君 先程兼岩委員から御質

問になりましたが、おきましては、

第一條に「捜査し、及び鎮壓するた

な。この昨日頂きました海上保安廳機

構案、これを見ますと港長事務所とい

うのが置かれる所がこう書いてあります。

それに若松出張所、そこに港長事務所というのが構が引張つてあります。

その理由につきましては、先程の會合におきまして申上けましたことと同

じで、運輸省の當局もまだ存在し

していないところの法律である港則法と

いうようなものを假定して立法するといふことは、法律的に不能であるとい

う見解については贊意を表されておる

ところなのですが、今聞くこ

とによれば、事前に衆議院においてま

だ本會議に諮つておりませんので、衆

議院の委員會側の事前の修正を求めた

のであります。衆議院の意思如何に

拘わらず、法律的に不能なことを立法

することは出来ないと思ひますから、

参議院はよろしく修正すべきものなり

と考えております。ただ併しながら

「港則に關する法令」という言葉が法律

的な立場から適切なる字句であるかど

うかといふことにつきましては、私自

身におきましても専十分の確信を持た

ないのでありますけれども、私がそ

うい言葉において意味しているところ

につきましては、皆さんも内容におい

て御了承願えることであると思うので

あります。その言葉の妥當性につきま

しては當局とも話合いの上検討して、

他に適切なる字句があれば直してまい

いと思つておりますが、大體その意味

するところは御了解願うことと思ひ

のであります。

○委員長(下條康吉君) 他に御意見

も……。

○岡本義祐君 先程兼岩委員から御質

問になりましたが、おきましては、

第一條に「捜査し、及び鎮壓するた

め、「と「捜査」という字を使つております。第七條においても「捜査」という字は使つてあります。だから捜査する

ことになると思います。

○岡本義祐君 そういたしますと、昨

日これも申上げて置いたのですが、第十八條の規定になりまして「海上保安官は、その職務を行うため四箇の情況

から實にやむを得ないときは、……左に掲げる處分をすることができる。」

ことにはこの法案の前提になつておると思ひます。そうして捜査をするということになつておると思ひます。そういうことであります。そうすれば立入検査せんとして拒まれれば、やはり侵入

することになれば憲法の第三十五条の規

定に關連して來るのであります。何

と雖もその住居、書類及び所持品に

は令狀を持つて行かなければなら

ん。權限を有する司法官憲が發する各

別の令狀を持つて行かなければなら

ない。申すまでもなく、海上における船

舶に對して拘禁されたから、それらそ

の船をそのままにして置いて令狀を取

り行くわけには行かんと思うのであ

りますが、そういうことに對してはどう

ういう措置をせられるおつもりか、そ

れをはつきり一つお伺いしたいと思ひ

ます。

○國務大臣(岡田勢一君) お答え申上

げます。船長が立入り検査、或いはいろ

の證據書類或いは資料の提出を拒

みました場合にはどうかといふ御質

問、これは大體運用の問題になります

て、施行細則を多分作られると思いま

すが、それの取扱いの運用になると思

いますのですが、大體今の考えとい

たしましては、十分なる資格を證憑す

る法的の命令書なりを持つております

罪の豫防もできなければ、まして犯人

の捜査はできないということになるの

であります。本邦におきましては、單

に第一條に「捜査し、及び鎮壓するた

め、「と「捜査」という字を使つており

めの手續を取りまして、その目的の捜査

なり検査を遂行する、こういうふうな

ことになると思います。

○岡本義祐君 そういたしますと、昨

日これも申上げて置いたのですが、第

十八條の規定になりまして「海上保安

官は、その職務を行うため四箇の情況

から實にやむを得ないときは、……左

に掲げる處分をすることができる。」

ことにはこの法案の前提になつておると

思ひます。そうして捜査をするということになつておると思ひます。そういうことであります。そうすれば立入検

査せんとして拒まれれば、やはり侵入

することになれば憲法の第三十五条の規

定に關連して來るのであります。何

と雖もその住居、書類及び所持品に

は令狀を持つて行かなければなら

ん。權限を有する司法官憲が發する各

別の令狀を持つて行かなければなら

ない。申すまでもなく、海上における船

舶に對して拘禁されたから、それらそ

の船をそのままにして置いて令狀を取

り行くわけには行かんと思うのであ

りますが、そういうことに對してはどう

ういう措置をせられるおつもりか、そ

れをはつきり一つお伺いしたいと思ひ

ます。

○國務大臣(岡田勢一君) お答え申上

げます。船長が立入り検査、或いはいろ

の證據書類或いは資料の提出を拒

みました場合にはどうかといふ御質

問、これは大體運用の問題になります

て、施行細則を多分作られると思いま

すが、それの取扱いの運用になると思

いますのですが、大體今の考えとい

たしましては、十分なる資格を證憑す

ることでは實貿易、不法入國その他の犯

罪の豫防もできなければ、まして犯人

の捜査はできないということになるの

であります。本邦におきましては、單

二項の、先程來問題になつております  
る「港則法に規定する事務を掌る。」と

○岡本愛祐君 先程篆岩委員から御質問になりました港長を置くところです

であります。本案におきましてもすでに第一條に「検査し、及び鎮壓するた

遂行が不可能でございします場合には、

うしてもこの犯罪を止めなければならんというときにはできますけれど、單

に向うから断つたら取調べるというだけでは、これだけの重大な事項はできないと私は解釋します。その點に對する御見解を伺います。

十分な検索ができる手續を取らざる」とが必要ではないかと、こういうふうに私は考えるので、その御研究を、政府でも頼み、又國會にもおこして、

うという意氣込に全國民が動いておる  
今日に、わざ～こうした條文を設け  
ることは適切でないと考えますの  
で、第二十五案と会期余することと

いわゆる港務部といふようなものがないので、港務部があれば、そこには港務官があつて、その船の出入その他の

然、今現在は港務部長といいますか、そういうような人の下にある吏員がやつておりますけれども、その港長といふ官職は無事ござりません。

○國務大臣(鷲田勢一君)　この船舶の停止を命じ或いは出發を止めますといふようなことは、相當に重大なことでありますて、それだけの處分を命じます。するには、それだけの根據が必要になつて参ります。それで今おつしやつたごとく、有力なる犯罪の嫌疑がある場合とか、他に重大なすでに證據が畢つておる場合でありますとかという場合

○北條秀一君 私は第二十一條の點について、先程兼岩委員から意見の開陳権を有する権利が付与されたのであります。そこでこの點について質問をさせていただきます。即ち本海上保安廳法案は、これと不可分の關係において港則法等を審議すべきであると考えるのであります。が、港則法が未だ審議に掛かっておりませんので、私はその點について何等質問をいたしません。

○中川幸平君 まだ相當御意見もあるようでございますが、先刻來兩委員會の委員各位からいろいろ御意見を承ることができたのであります。後より又決算委員會としていろいろ協議せんならんこともありまして、この程度で連合委員會を打ちつたらどうかと、一勧議を提出いたします。

港の安全がひとくちに業者の發行が圓滑に  
き得るような技術官を置いて、そ  
ういうことを處理しております  
から、船の出入りに對しても理解もあ  
り、知識もあるといふようなことでござ  
るに拘わらず、若松では多年水上營業  
がそういう事業を行なつております  
ために、航海業者は勿論のこと、船主の  
他関連する海運業者も非常にその時  
において迷惑を感じておつて、港務

お前が悪いわけには、適當な各自を置くにしましても、その歸屬は、やはり水上のことを保安廳で扱い得るということならば、それを一元的にした方が、最も海運を秩序正しく進行させる上に便利だろうと思うのであります。ただ一つ、官吏がそういうようなことをすることによつて、民間でするよりもいろいろな封建的な、強壓的な行き方があつて、それは民主的に行かないとい

て、ただむやみやたらに保安官が何でもないことで、感情問題とか何かをからず。これ亦おのずからこの分量につきましては、停船を命じたり又出帆を停止することはできないことであると思いましては、服務細則とか規程とかいうこ

見だけを申述べて終りたいと思うのですがあります。即ち地方公共團體の管理による港湾がすでにあることは、御承知の通りでありまするが、従つて地方公共團體の管理する港湾については、地方公共團體の長において港湾を管理せしめて行くと、いは今日までの方法が最も正しいと考えますので、従つて港則法を審議するに際しては、海上保安廳の

○小泉秀吉君　折角同意の出でるのを邪魔して済みませんが一言、私は只今の北條委員の二十一條の削除に反対でござります。そのわけは、隨分今までこの問題が問題になつておる骨子をずっと吟味して見ると、失禮ながら非常に語解があるのでないかといふことを私は思うのです。ということは、

の設置をいろいろよなことを議會に對しても多年請願をしたり、いろいろな方法を探つておつた事實に鑑みまして、私はこの際折角この海上保安廳といふようなものができて、そこでどういふふうな業務に多少関はしはするけれども、決して航海の安全、船舶の安全航路の指定、鋪地の指定というような港内のいわゆる安全のための秩序を保

う御議論もありますし、又私もその點必ずしも反対でないけれども、それは官廳だから民主的でなくて、民間でやるから民主的だというようなことは、おのずから議論の観點が違つたうと思つております。そういうふうに官廳の吏員が民主的にやらなければ、やらないこと、そのことをいろいろ改善するようにし、又改良させること

〇岡本愛祐君　そこで私は申上げるの  
ですが、この十八條は、そういう單な  
立入りを拒絶した、それだからすぐ  
十八條の適用ということはでき得ない  
ものと考えますが、ともかく断わつた  
りする船は一應怪しいと見なければ實  
はないのであります、それに對  
して從來の令狀の發布を見る手續によ  
つては、どうしても海上における船舶  
を作らるべきものであり、作りたいと  
思つております。

下部構造として各港に設置せんとするところの港長事務所といふものは、全く不要になつて来るといふ私は意見を持つてゐるのであります。従つてそれは次の審議に譲ることにいたしまして、先程兼岩委員の申されました港長の點について、この名稱は合理的でないと考へるのであります。従つてここに規定するところの港長の名稱は、その職分に適應するよう修正すべきであるという意見を私は申述べたいのであります。

警察官が港内を扱うことが工合が悪いから、それが面白くないから、そういうふうな港長事務というようなものは、管理運営の方で擔當するのだ。具体的にいうと、錨地指定とか、轟鐘だとか、水路、港内の安全とかいうようなものは、それはこの保安廳でやらない方がよいのだというようなことになつておるようでござりますが、實情をいいますると、現在も多分そうぢうと思ひますが、過去長い間若松の港を考えて見ると一番よく分るだらうと

に對しての搜索といふものはできにく  
いのでありますから、何か適當な法律  
的措置を講ぜられて、そうして折角こ  
の海上保安廳といふ立派な制度ができ  
るのですから、そういうものに對して

それから第二は二十五條であります  
るが、第二十五條は、簡単に申します  
と、全く不必要的規定であると考えます  
す。即ち我々は、憲法において武装を  
一切廃棄し、平和文化國家を建設しよう

思います。若松の港は、あれは先刻來お話のあるような、東京と同じよくな性質の港でありまするが、港のそういう航運安全のことを擔當しておるのには、水上警察がやつておる。そこには

し、又都合がよいのだろう、こういふうな見地からいたしまして、單に幾地の指定であるとか航路を指定するといふようなことは業務のことだとしているのです。事實において港の一定の區域の中に入つた大きな船が入つたり、小さな船が入つたりする時分に、その混亂を防ぐためには航路の一つの設定もしなければならないし、又船が入つて來る

○委員長(下條慶賀君) それではこの程度で連合委員會を閉じたいと思いま  
すが、如何でござりましょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(下條慶賀君) それではこの程度で連合委員會を開じます。これで連合委員會は散會いたします。

午後三時四十六分散會

出席者は左の通り。

の船を著ける場所を秩序正しく指定を  
するというようなことは、これは當

下塔東源委員長

第二十五部 決算・治安及び地方制度・運輸及び交通連合委員会会議録第一号

昭和二十三年四月六日【赤穂院】

太田 敏兄君

西山 龜七君

國務大臣 岩崎正三郎君

政府委員

運輸事務官

(海運廳局、不

法入國船監

視本部副部長)

山崎小五郎君

岩崎正三郎君  
田中 利勝君  
北村 一君  
中川 幸平君  
平野 善治郎君深川タマエ君  
駒井 康平君  
鈴木 憲一君  
兼岩 傳一君  
千田 正君運輸事務官  
(海運廳局、不  
法入國船監)

視本部副部長)

山崎小五郎君

吉川末次郎君  
羽生 大隅  
中井 鈴木  
三七君 慤二君  
大隅 慤二君  
黒川 武雄君  
岡本 愛祐君  
小野 哲君  
柏木 廉治君  
阿竹齊次郎君吉川末次郎君  
羽生 大隅  
中井 鈴木  
三七君 慤二君  
大隅 慤二君  
黒川 武雄君  
岡本 愛祐君  
小野 哲君  
柏木 廉治君  
阿竹齊次郎君治安及び地方制度委員会  
委員長 吉川末次郎君

理事

委員

委員

運輸及び交通委員会  
理事小泉 秀吉君  
中村 正雄君  
小林 賢馬君  
飯田 精太郎君  
尾崎 行輝君  
新谷寅三郎君  
早川 慎一君  
秀一君

丹羽 五郎君